

平成25年度に建設工事で発生した事故事例（墜落・転落事故）

事故概要：

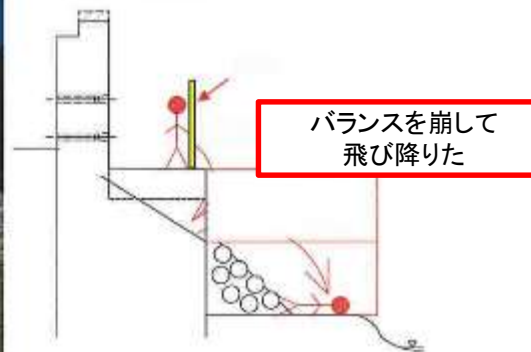
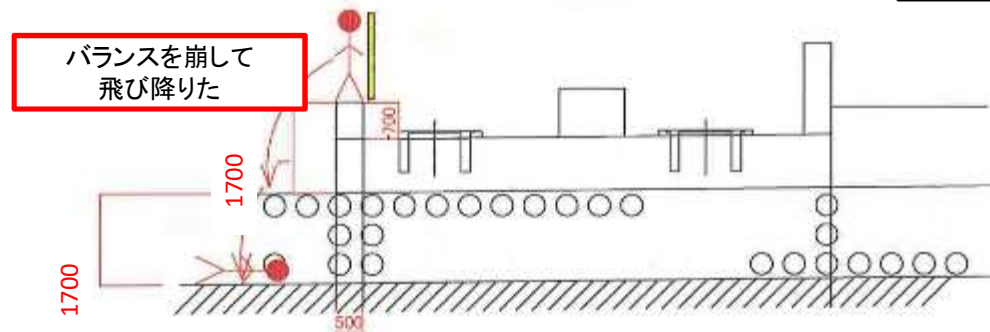
橋梁橋台沓座の測量のため、橋台側壁に登る測量しようとしたところ、バランスを崩したため、護岸の天端に着地しようと飛び降りたが着地に失敗し、その後護岸を落下した。

事故原因：

側壁天端に登らなくても測量は可能であったが、測量精度を上げようと不用意に登ってしまった。

改善対策：

- ・転落の恐れのある箇所への手すり等の設置
- ・安全標識による表示の設置
- ・安全教育の徹底



分類：準備工、測量

被害状況：約2か月の加療（右足関節開放性脱臼骨折）

令和4年度に建設工事で発生した事故事例（墜落・転落事故）

【事故概要】

起工測量のため測量機器（トータルステーション約9.5kg）を背負い、県道山側の間知ブロック（高さ3.4m）まで梯子で登った後、その上の仮設大型土のう（高さ0.7m）に登ろうと落石防護柵のワイヤーに足を掛け移動したところ、バランスを崩し約4.1m下の県道に墜落した。

【事故原因】

- ・間知ブロックまでは、梯子を設置し登ったが、その先にある大型土のうを超えるまでの間に、危険防止措置を実施していなかったこと。
- ・高さ2.0m以上の移動があることを知っていたが、測量等の準備段階であり、墜落に関する安全意識が薄れていたこと。

【改善対策】

- ・手摺付きの昇降階段を大型土のう上部まで設置し、墜落防止対策を行う。
- ・転落が想定される場所にはロープ柵を設置する。
- ・測量等の準備段階における安全意識を向上させるため、「安全衛生パトロール（着工前）チェックリスト」を作成し、工事標識、現場事務所、墜落防止施設の設置状況を毎日点検する。
- ・新規入場者教育の内容に、「ヒューマンエラーによる事故・災害の防止」を追加することで、作業員に対する安全教育を徹底する。

事故現場状況



【分類】 準備工 測量

【被害状況】 業者人身 61歳 左脛骨腓骨骨折 腰椎骨折